

済生会新潟 県央基幹病院の 開院に向けて

三条市長
滝沢 亮

燕労災病院長
遠藤 直人
(済生会新潟県央基幹病院長予定者)

済生会新潟県央基幹病院の開院まで5カ月となりました。
そこで、当病院院長に就任予定の遠藤直人氏と三条市長が、
病院開設の準備の状況や同時に行われている地域の医療体制の再編について対談をしました。

■これまでの 県央地域の医療提供体制

市長 県央地域で1年間に出勤する救急車の4台に1台は、新潟市や長岡市などの医療機関に患者を搬送しています。昨年、父が自宅で倒れたときも長岡市の病院に搬送されました。

遠藤病院長

医療提供側の問題として、県央地域の病院はどれも200床程度の中小規模です。若い医師は大きな病院での勤務を望む傾向があるので、県央地域内で勤務する若い医師が非常に少なく、どの病院も医師不足で医療提供が難しくなっています。あわせて、医師の高齢化も進んでいます。

また、どの地域も同様ですが、今後、75歳以上の後期高齢者が増加し、高齢者に対する医療提供のニーズが高まります。

こうした中、現在、県央地域の医療再編を進めており、済生会新潟県央基幹病院を核として、地域の各医療機関がそれぞれの役割を分

担し、相互に連携を図ることで「地域がひとつの病院」として機能することを目指しています。

市長

私の前職の弁護士の世界も同じで、若い人は大きな事務所に就職したがる傾向があります。最先端の医療技術が学べる大きな規模の病院に若い医師が勤務したがるのもうなずけます。

市長

し、済生会三条病院などでは高齢者の医療や軽症患者の救急、入院、外来に対応します。

遠藤病院長

私は、最初は、済生会新潟県央基幹病院ができれば地域の全ての医療の問題が解決すると考えていましたし、市民の方の中にもそのように考える方がいるのではと思っています。

しかし、そうではなくて、済生会新潟県央基幹病院を中心に各病院や診療所がそれぞれの機能に応じた役割分担し、「地域がひとつの病

院」として、連携して医療を提供する体制になることを、私たち行政も市民の方に伝えていきたいと思っています。

市長

三条市では紹介状の仕組みを取っている病院がないので、市民の方の中には、紹介状が身近でないという方もいるかもしれません。済生会新潟県央基幹病院にかかるときには、緊急のときなどを除いて、紹介状が必要となることを伝えていきたいです。

今後、高齢化率が上がる中で、介護も含めた地域医療の総合力が試されます。これまで以上に、関係部門と連携していければと思っています。

■県央地域の 医療提供体制の再編

遠藤病院長

県央地域の医療提供体制の再編には大きく2点あります。

1点目は、救急医療に対応できる体制を充実し、救急車が他の地域に搬送する件数を減らすことを考えています。平日の日中は済生会三条病院や新潟県立吉田病院、新潟県立加茂病院が、重症の場合や夜間休日は済生会新潟県央基幹病院が受け入れます。

2点目は、医療機関の機能に応じた役割分担です。済生会新潟県央基幹病院では救急医療と高度で専門的な手術、入院、外来に対応



建設が進む済生会新潟県央基幹病院

■これからの 病院・診療所へのかかり方

遠藤病院長

まず、皆さまにはかかりつけ医を持っていただきたいと思います。少し体調を崩したときは、まずかかりつけ医で受診ください。専門的な治療が必要になったときに紹介状をもらい、済生会新潟県央基幹病院で受診いただきます。

済生会新潟県央基幹病院は基本的にかかりつけ医などからの紹介